

がん生存率に関する国際共同研究における

日本のデータについての論文公表

CONCORD 研究による研究成果の公表

令和8年6月30日

宮城県立がんセンター

宮城県がん登録室

研究所がん疫学・予防研究部

宮城県がん登録室では、宮城県がん登録管理事業に基づき、宮城県のがん登録情報をとりまとめ、集計及び結果の公表を行うとともに、がん登録データを活用した国際共同研究に参画しています。このたび、研究所がん疫学・予防研究部の協力を得て、世界各国のがん生存率を算出し、比較する大規模国際共同研究の編集作業に参画し、その集計結果について、論文として公表されましたので、お知らせいたします。

○ 「CONCORD 研究」について

CONCORD 研究 (CONCORD Programme) は、世界各国のがん生存率を算出し、比較する大規模国際共同研究であり、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院が研究グループを組織し、データの収集、集計・分析、公表を行っています。2008 年に最初の分析結果が論文として公表され、その後、CONCORD-2 (2014 年)、CONCORD-3 (2018 年) と実施されてきました。その主要な集計結果は、経済協力開発機構 (OECD) の保健医療の質の評価指標のひとつとして採用されています。宮城県では、CONCORD-2 から連続して参加しています。現在、CONCORD-4 が 2022 年から開始されています。

➤ The Cancer Survival Group (the London School of Hygiene & Tropical Medicine)

<https://csg.lshtm.ac.uk/>

○ 「CONCORD 研究」にデータが採用・公表されることの意義

公表されたがん登録のデータは、国際的な基準を満たした精度の高いデータであり、比較可能性が担保されているデータということになります。そのため、データが採用され、公表されることは、そのがん登録のデータの精度の高さを証明することになります。このような精度の高いデータを有する宮城県のがん登録のデータは、宮城県のがん対策や宮城県を対象としたがん研究を進める上で活用されています。改めて、関係者の皆さまのご協力に対して、感謝申し上げますとともに、今後も高い精度でデータを収集して参りたいと考えております。

また、宮城県のデータが採用され、公表されることで、日本全体としてのデータ件数も増え、

集計結果の信頼性が高まることにつながると同時に、集計結果についても、宮城県を含む集計結果として利用することが可能になります。

○ 今回の集計結果

CONCORD-3 研究では、世界 61 か国から 258 のがん登録のデータが採用されました。日本からは、宮城県など 16 府県のデータが採用されました。

今回公表された論文は、日本から提出されたデータについて、2000 年から 2014 年までの 15 年間における集計結果になります。全体的な傾向、また、食道、胃、大腸、肝臓・膵臓、肺、皮膚黒色腫、女性の乳房・子宮頸部・卵巣、前立腺、脳腫瘍、造血器腫瘍、小児がん（脳腫瘍、リンパ性白血病、リンパ腫）について、合計で 13 編の論文が公開され、多くの部位・がん種において、生存率が向上していることが確認されました。

なお、論文の執筆に当たっては、16 府県のがん登録室、青森県がん登録室、ならびに国立がん研究センターを中心に組織された Japanese CONCORD-3 Working Group が行いました。

論文については、以下のサイトから確認できます。

- JJCO から Japanese CONCORD-3 Monograph が刊行されました（日本がん登録協議会ホームページ）

<https://npo-jacr.jp/?p=2709>